

2013 年度後期 工学部デザイン学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1P009001	デザイン論 II	1 年後期火曜 2 限	渡邊 誠他	T1P 1
T1P010001	デザイン科学 I	1 年後期水曜 3 限	岩永 光一他	T1P 2
T1P022001	コミュニケーションデザイン II	2 年後期水曜 4 限後半 / 2 年後期水曜 5 限	桐谷 佳恵他	T1P 3
T1P023001	デザイン科学演習 II	2 年後期金曜 1 限後半 / 2 年後期金曜 2 限	岩永 光一他	T1P 4
T1P025001	ヒューマンインタフェース論	2 年後期水曜 2 限	岩永 光一他	T1P 5
T1P026001	デザイン材料	2 年後期火曜 3 限	寺内 文雄	T1P 6
T1P027001	デザイン文化論	2 年後期火曜 2 限	鈴木 直人他	T1P 7
T1P028001	プログラミング演習 I	2 年後期金曜 4 限後半 / 2 年後期金曜 5 限	石橋 圭太	T1P 8
T1P043001	コミュニケーションデザイン IV	3 年後期水曜 3 限 / 3 年後期水曜 4 限前半	桐谷 佳恵他	T1P 9
T1P044001	デザイン科学演習 IV	3 年後期月曜 1 限後半 / 3 年後期月曜 2 限	岩永 光一他	T1P 10
T1P045001	生活行動の心理学	3 年後期火曜 2 限	桐谷 佳恵	T1P 11

授業科目名	: デザイン論 II
担当教員	: 渡邊 誠, 玉垣 庸一, 佐藤 公信
年次・開講時限	: 1 年後期火曜 2 限
授業コード	: T1P009001
授業アンケート	: 回答者数 32 人 / 受講者数 73 人 (回収率 44%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 26 件)

回答の平均値は 4.15 です。

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 27 件)

回答の平均値は 4.37 です。

Q11. 授業内容の量を考慮すると, 進度は適切でしたか? (回答 27 件)

回答の平均値は 4.48 です。学科平均 (4.11) よりかなり高くなっています。

Q12. あなたはこの授業にどの程度出席しましたか? (回答 27 件)

回答の平均値は 4.7 です。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 27 件)

回答の平均値は 2.3 です。学科平均も低い (3.27) ですが, それよりもさらに低い値です。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 25 件)

回答の平均値は 4.08 です。学科平均は 4.12 です。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

上記各項目への回答結果から, 授業には積極的に出席しており, 進度も適切であり, 授業内容もそこそこ理解できているが, 予習復習にはほとんど時間をかけていないという姿が浮かび上がってきます。

予習復習を要せずとも授業内容をその場で理解できるよう十分に配慮された講義になっている, というのでしょうか。

あるいは, 演習系授業の課題をこなすことで手一杯であり, 座学系授業の予習復習に時間をあてる余裕がないということでしょうか。

3. その他のコメントや連絡事項

作成 (者): 玉垣庸一

授業科目名	: デザイン科学 I
担当教員	: 岩永 光一, 寺内 文雄
年次・開講時限	: 1 年後期水曜 3 限
授業コード	: T1P010001
授業アンケート	: 回答者数 35 人 / 受講者数 76 人 (回収率 46%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 30 件)

アンケート結果は、全般的に平均的な水準にあり、おおむね良好な結果であったと解釈している。上記のQ9についても、平均4.40に対して本授業科目では4.45であった。本授業科目は、特に1年生を対象にした必修科目ということもあり、できるだけ具体的な事例を示すように心がけているが、この点をさらに改善することによって全体的な理解度の向上が期待できるかもしれないと考えている。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

本授業は、特に1年生を対象にした必修科目であり、大学生としての主体的な学習態度への切り替えと修得も授業の大きな目標の一つである。アンケート結果は全般的に平均的で良好であったが、このような点において成果が得られたのかどうか、今後は注意深く見ていきたいと考えている。

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 岩永光一

授業科目名	: コミュニケーションデザイン II
担当教員	: 桐谷 佳恵, 木村 博之, 児山 啓一
年次・開講時限	: 2年後期水曜 4 限後半 / 2年後期水曜 5 限
授業コード	: T1P022001
授業アンケート	: 回答者数 21 人 / 受講者数 47 人 (回収率 45%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 5 件)

「コンピュータの接続を事前に確認しておくべき; プレゼンを聞いている側もより多くが参加できるとよい; もうひとつくらい大きな課題があってもいいかなと思った。少しだけ物足りなかった。; 課題数が少なかつたように思う。もっと小さい課題をたくさんこなす形の方が力がついた気がする。; シラバスでもガイダンスでも授業の内容がいまいち分からなかった授業自体もコミュニケーションデザインという感じではあったが、もっとグラフィックよりの授業も少し入れて欲しかった昔は本の装丁のような授業があったらいいが、そういうことをしたかった(いつもは臨時講師が 3 人だけど今年は 2 人だと言ってた...)」という意見を頂いた。課題が少ないとの意見が多い。量より質を求める内容にしてゆきたい。

Q29. この授業で良かった点について記入してください。(回答 5 件)

「わかりやすい例を示してくれて助かった。; グループワークやプレゼンを通して実践力を向上させる機会になったのでよかった。; グループワークが多かった; "わかりやすく伝えるためのデザイン"ということについて考えられた点。; 実際のデザインの現場でどのようにおこなわれているか、グループワークを通じて学べた。」今年度は、2 名の講師が連続テーマで行うという初めての試みを行った。コミュニケーションデザインの基礎という点では、目標達成できたと判断できる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

非常勤講師 2 名による授業だが、一貫したテーマを設け、コミュニケーションデザインの基礎をより理解してもらうことを目標としている。受講生数が多いので、課題を容易と捉えた者もいたようである。中間課題など、講師にはもう一度見直すよう、伝える予定である。

3. その他のコメントや連絡事項

授業に関してコメントがある場合は、授業評価をまたず、常勤の桐谷まで遠慮なく連絡を。

作成(者): 桐谷佳恵

授業科目名	: デザイン科学演習 II
担当教員	: 岩永 光一, 久保 光徳, 寺内 文雄, 田内 隆利, 勝浦 哲夫, 下村 義弘, 日比野 治雄, 小山 慎一, 石橋 圭太
年次・開講時限	: 2 年後期金曜 1 限後半 / 2 年後期金曜 2 限
授業コード	: T1P023001
授業アンケート	: 回答者数 28 人 / 受講者数 71 人 (回収率 39%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 4 件)

使用する教室のエアコンは修理しました。

教員と TA の体制については、次の演習 III および IV でも同様だと思います。領域横断的の演習ですので、一度にすべてを改善するのは難しいですが、教員側での情報共有の必要性を感じました。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

領域横断的の演習ですので、アンケートの回答も難しかったかと思います。いずれにせよ、教員側での情報共有も大事だと認識しました。

3. その他のコメントや連絡事項

デザイン科学演習の I から IV は、入門、基礎、応用、発展とデザインの科学的側面を領域横断的に学習する科目です。内容の広さと深さのバランスをとることは常に悩みの種です。しかしながら、個別に習った内容を各自で消化し、習った知識の点を線でつなぎ、また面を構成するのが大学での学習方法です。単に習った内容を理解だけでなく、展開を頭に入れながら、履修することを希望します。

作成(者): 石橋圭太

授業科目名	: ヒューマンインタフェース論
担当教員	: 岩永 光一, 石橋 圭太
年次・開講時限	: 2年後期水曜 2 限
授業コード	: T1P025001
授業アンケート	: 回答者数 12 人 / 受講者数 24 人 (回収率 50%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 11 件)

アンケート結果は、全般的に平均的な水準にあり、良好であったと解釈している。上記の Q16 も、平均 4.36 に対して本授業科目の平均は 4.33 であった。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

2年次後期の選択科目であることを考慮して、専門性に特化した研究の方法に関する具体例を解説する時間を増やしたが、おおむね好評であったように感じている。

作成(者): 岩永光一

授業科目名	: デザイン材料
担当教員	: 寺内 文雄
年次・開講時限	: 2年後期火曜 3 限
授業コード	: T1P026001
授業アンケート	: 回答者数 26 人 / 受講者数 71 人 (回収率 37%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 25 件)

この項目の平均値は 4.68 であった (学科平均: 4.33)。76%が満足していると回答していることから、概ね妥当な結果であったと考えている。全員が満足できるまで、引き続き努力していきたい。

Q10. 授業では宿題、レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか? (回答 25 件)

この項目では、72%が「5. はい」、残る 28%が「4. ややそういえる」と回答しており、平均値は 4.72 であった (学科平均: 4.38)。受講者に自ら学ぶ機会を提供するために、引き続き継続していきたい。

Q9. 例題、例えば話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 26 件)

この項目の平均値は 4.73 であった (学科平均: 4.45)。実際の材料サンプルを示したり、体験型の内容を加えているためと考えられる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業進度は 4.73 と、おおむね適切と判断できる。一方、授業内容の理解度は学科平均値は上回っているものの、十分満足できるレベルになかった。

またスライドが早い、口頭だけで回答を済ますというコメントがあった。スライドを送る早さと板書には配慮したい。

3. その他のコメントや連絡事項

授業スライドを Moodle に上げてほしいという意見があった。理解はできるが、授業に集中することも忘れないでほしい。聞き逃したことがあれば自分で調べるくらいのつもりで授業に臨んでほしい。次年度以降、重要な点は Moodle にアップするようにしたいと考えている。

作成(者): 寺内文雄

授業科目名	: デザイン文化論
担当教員	: 鈴木 直人, 植田 憲
年次・開講時限	: 2年後期火曜 2 限
授業コード	: T1P027001
授業アンケート	: 回答者数 16 人 / 受講者数 43 人 (回収率 37%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 15 件)

Moodle を活用して、できるだけ、授業で使用する資料を渡せるようにしたことが、授業への関心や理解を深めるものと推察される。今後も、より資料の充実に力を入れたい。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 16 件)

本授業に関しては、準備学習・復習にかかる時間がきわめて少ない。授業中に紹介した文献などを熟読することで、デザインに関する知識を増やし理解を深めることが可能と思われる。今後は、準備学習・復習を踏まえより効果的になるよう、授業の進め方を工夫したい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

デザインとは、単にものづくりをするのではなく、より豊かな生活を提案する領域である。このことを理解するためには、「生活とは何か」「ものづくりの多様な価値」「文化とは何か」などを理解することが重要である。また、そのためには、受講者のみなさんが、さまざまなものごとにより関心を高めていくことが重要である。今後も、こういった視点を堅持しながら、より関心のもてる授業を組み立てていきたい。

3. その他のコメントや連絡事項

「デザイン文化論」は、デザイン学科のなかでも数少ない講義科目のひとつである。学生の間では実習・演習科目を重視し講義科目を軽視する傾向があるように思われるが、より幅広い見地からデザインを理解してもらうためにはきわめて重要な科目であると自負している。今後であっても、授業資料を充実させたり、時節に応じた話題を取り入れるなどし、より分かりやすく関心が持てる授業となるよう工夫していきたい。

作成(者): 植田 憲

授業科目名	: プログラミング演習 I
担当教員	: 石橋 圭太
年次・開講時限	: 2年後期金曜 4 限後半 / 2 年後期金曜 5 限
授業コード	: T1P028001
授業アンケート	: 回答者数 10 人 / 受講者数 30 人 (回収率 33%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 3 件)

前年度からの変更点として、授業の最初の 3 分の 1 を配付資料を基にした自習時間に充てたため、演習全体の内容を消化するための時間的な制約がありました。全体の時間を考え、内容を精査する予定です。次年度も積み上げ式で講義・演習であるため欠席時のリカバリーが難しいことを周知徹底する予定です。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

各回の授業時間を 3 等分し、配布資料を基にした自習、講義、そして実際に手を動かして学ぶ演習で構成しました。授業の最初の 3 分の 1 の時間を配付資料を基にした自習時間に充てたのは今年からです。このため内容を消化するための時間的な制約がありました。しかしながら、各自で資料を読み解きながらの自習時間の学習効果は高いと考えています。この時間に積極的に学習した学生の理解度は高かったためこの方法は踏襲する予定です。全体の時間を考え、取り扱う内容を精査する予定です。

3. その他のコメントや連絡事項

積極的にトライアンドエラーを経験させたため、トラブルを解決できずに停滞してしまう学生も多かったと思います。これはこの分野の学習では避けて通れないことなのである程度は覚悟してください。

講義中の私語は厳禁としていますが、作業中の学生同士の相談や教えあうことはお互いの理解が進むため奨励しています。積極的にコミュニケーションをとってください。

なお実習と演習の違いを認識していない学生もいたようです。演習は授業時間以外に予習復習を行うことを前提に内容を構成します。大事なことです。周知徹底する予定です。

作成(者): 石橋圭太

授業科目名 : コミュニケーションデザイン IV
担当教員 : 桐谷 佳恵, 玉垣 庸一
年次・開講時限: 3 年後期水曜 3 限 / 3 年後期水曜 4 限前半
授業コード : T1P043001
授業アンケート: 回答者数 14 人 / 受講者数 31 人 (回収率 45%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q1. この講義のシラバスについて、該当するものを全て選択して下さい。(回答 14 件)

「内容が分かりやすかった」64.3%、「講義を履修選択するのに役立った」21.4%、「シラバスは見なかった」14.3%となっており、シラバスの重要性を再認識した。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか？(回答 13 件)

「はい」30.8%、「ややそういえる」46.2%、「どちらともいえない」23.1%で、理解度は高い方と判断できた。はいが最頻値を得るよう、引き続き努力したい。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？(回答 13 件)

「はい」30.8%、「ややそういえる」46.2%、「どちらともいえない」7.7%、「あまりそういえない」7.7%、「いいえ」7.7%となっており、肯定的意見が8割近くを占めた。しかし、1名ずつの回答ではあるが、否定的回答もあった。具体的コメントがないので、どの辺りに不満があったのか不明だが、授業中に学生の意見をなるべく吸い上げる努力をしたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

総じて評価の高い科目と判断できた。この科目は、学生からすると研究室仮配属後に受講するものである。どの研究室であっても、卒研でなにがしかの部分が活かせるよう、これからも授業内容ややり方を工夫したい。そのためには、授業評価を待たず、積極的に受講生には意見を教員側に伝えてもらいたい。

3. その他のコメントや連絡事項

上述のように、授業にすぐ反映すべきことがらは、遠慮なく教員にフィードバック願いたい。

作成(者): 桐谷佳恵

授業科目名	: デザイン科学演習 IV
担当教員	: 岩永 光一, 久保 光徳, 寺内 文雄, 田内 隆利, 勝浦 哲夫, 下村 義弘, 日比野 治雄, 小山 慎一, 石橋 圭太
年次・開講時限	: 3 年後期月曜 1 限後半 / 3 年後期月曜 2 限
授業コード	: T1P044001
授業アンケート	: 回答者数 31 人 / 受講者数 62 人 (回収率 50%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q7. 教室の環境は満足できるものですか? (回答 30 件)

後期は晩夏の暑い時期から 2 月の真冬までにわたるため、教室の温度管理と換気を季節を追うごとに気を付けるべきでありました。できるだけ改善するよう努力します。着席時の温度や空気感は教壇にいると察することができないことがありますので、受講者のみなさんも遠慮なくお知らせください。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

受講者のみなさんの熱意が逆に伝わってきました。これからも頑張ってください。

3. その他のコメントや連絡事項

千葉大学デザインの科学・工学系の基礎となるデザイン科学演習シリーズを、これからも研究室が協力し合って発展させていきたいと思えます。コメントがありましたら随時お寄せください。

作成(者): 下村

授業科目名	: 生活行動の心理学
担当教員	: 桐谷 佳恵
年次・開講時限	: 3 年後期火曜 2 限
授業コード	: T1P045001
授業アンケート	: 回答者数 17 人 / 受講者数 35 人 (回収率 49%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 2 件)

「特になし」「期間が短いのでしょうかがないにのかもしれないが、少し詰め込みすぎな気がした。できるなら一年かけてじっくり学びたい内容であった。」というご意見を頂いた。今回、後半にこれまでにない試みを試したため、盛りだくさんになった感は否めない。次年度は、もう少し余裕をもった構成にする予定である。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか?(回答 17 件)

「はい」58.8%、「ややそういえる」29.4%、「どちらともいえない」11.8%で、理解度が高かったと判断できる。上記、詰め込み過ぎというご批判を頂いたが、そのような中、受講生ががんばってついてきてくれたことがわかる。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか?(回答 17 件)

「はい」88.2%、「ややそういえる」5.9%、「どちらともいえない」5.9%で、非常に満足度が高い授業だと判断できた。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

今回、前半 2/3 を社会心理学的内容の講義と実験、残りを前半をふまえた自己統制の知見紹介と実習というかたちにした。自由記述では、「後半の意志力の授業は特に、とても有意義な授業でした。ありがとうございました!; 実験等があり、わかりやすかった; 例を多く示してくれたので授業の内容が分かりやすかった。」という意見を頂き、基本的やり方に問題はないと判断できた。

3. その他のコメントや連絡事項

実習で講義内容を確認する方法をとる。授業外課題も多いが、実生活に役立つよう、配慮した授業である。

作成(者): 桐谷佳恵